

大切な娘を亡くした ノコサレタ家族 「ベロ亭」の物語

死を見つめると、
生が見えてくる

日時：令和7年3月1日(土)

午後2時～4時

開場 午後1時30分

無料

要申込

場所：武蔵野商工会館4階
ゼロワンホール

定員：90名



身近な人の自死に遭遇しても、行き場のない思いにフタをしたまま、誰にも話せずに生きづらい日々を送る人々があります。今回は娘の自死に直面し、本を書くことで娘の尊厳に真正面から向き合い続けたからこそ見えてきた「生の真実」を、50年のパートナーシップで結ばれた2人の母が語ります。

講師：あする 恵子

詩人、ものかき。首都圏育ち。1979年福井県に移住。パートナーの岩国英子と5人の子どもたちと、ベロ亭ファミリーを古民家に築いて50年近く。30年間、『ベロ亭やきもの&詩キャラバン』を全国展開、子どももろとも女二人で生き抜く、自由であるがままの姿が全国の女たちを鼓舞する。1986年に自作詩朗読を始める。2008年秋、娘ののえを喪う。最初の衝撃と周囲の沈黙の壁に直面し、根の深い孤絶の歳月をくぐり抜ける。資料として著書『月よわたしを唄わせて』を紹介する。「うたうたいのえ」の2曲も披露。

講師：岩国 英子

40数年の陶歴を持つ陶芸家。自作の土笛を、あする恵子の朗読に重ねる。娘ののえの5歳の時からの第二の母で、体当たりで「かくれ発達障害」にぶつかってきた。37歳の娘を喪ってから、自らを「ノコサレシ者」と名づけた。